

一般研究助成実施状況
モスクと都市空間の融合：ムスリムと日本社会の共生の可能性を探る

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
教授 東長 靖

日本には 100 以上のモスクがある。モスクと言えば、次の写真に見るような姿を思い浮かべるであろう。これはトルコ風のモスクで異国情緒があり、大変美しい。しかし、それが自分の町内に新しく作られるとしたらどうだろうか？



【東京ジャーミイ（出典：東京ジャーミイホームページ）】

日本では、仏教の寺院、神道の神社に続いて、キリスト教の教会もすでに問題なく街の景観に融け込んでいる。しかし、このようなモスクが突然自分の住んでいる町の中に現れるとしたら、いささかの違和感を覚える人も少なくないに違いない。

実は、日本のモスクにはふたつの系統がある。一つは、そこを運営しているムスリム（イスラーム教徒）たちの出身地のデザインを取り入れたり、再現しようとするモスク。もう一つは、日本の街並みのなかに自然に入っていくことを目指しているモスクである。



【ジャパنداアワセンター外観
(出典：以下、調査者撮影)】

前者の場合、当該国出身者の結束力を高める効果が期待できる反面、他国出身者のムスリムを排除する可能性や、モスクが建設される現地社会からの遊離が懸念される。後者の場合には、現地社会への融合が比較的容易になされよう。また、近年は、外国出身の第一世代にくわえ、日本で生まれ育った第二・第三世代のムスリムが増えている。彼らにとっては、親の出身国よりは日本文化になじんだモスクの方が親和性が高いことも少なくない。ただし、移住第一世代のなかには、自分たちのよき伝統が失われてしまうと感じる人もいるだろう。

前者の代表例は、上に挙げた東京ジャーミーである。後者の例としては、大阪市住吉区にあるジャパنداアワセンターが挙げられる。建物の外観はごくふつうのビルであり、イスラーム色はまったく感じられない。

中に入ってみても、日本文化がふんだんに取り入れられている。モスクは畳敷きだし、礼拝の方向を示すミフラーブも日本の床の間のしつらえになっている。



【ジャパنداアワセンター内陣】



【ジャパンダアワセンター「多様性と調和」】

このセンターが大切にしている言葉に”Unity in Diversity”というものがある（これは、センター代表ゾルカルナイン氏の祖国マレーシアの国是でもある）が、これは「多様性と調和」と訳されている。

団体名であるダアワは、通常「宣教」と訳されるが、氏はむしろ「理解」に近いとし、センターでは「お知らせ」と訳しているとのことであった。「多様性と調和」という標語と並んで、日本人に違和感を抱かせないための工夫をこらしているとみられる。

本研究は、在日ムスリム人口の増加に伴って現象化するモスクに関わる様々な問題について、イスラーム思想の観点から検討し、その成果を啓発することによって、モスクの日本の伝統的な都市空間における共生の過程を支援しつつ、日本の都市・居住環境の向上に貢献しようとするものである。

共生や穏健イスラームの問題に取り組んできた東長靖（京都大学）、トルコ出身のイスラーム研究者であり、モスクと日本のモスクに関わる問題についても詳しいイドリス・ダヌシュマン（立命館大学）、日本におけるムスリム・コミュニティ研究の先駆者の一人である岡井宏文（京都産業大学）がチームを組んで、この研究に取り組んでいる。

この研究が主たるターゲットにしたのは、以下の3点である。第一に、モスクが日本のこれからの都市空間の一要素として持ちうる側面を中心に据えること。第二に、モスクの日本の街並みへの統合の可能性を検証すること。第三点として、これを通して将来的には、日本社会におけるモスク建設についての指針を示したいと思っている。

これまで私たちは、研究会以外に、日本で6つのモスクを調査してきた（今年度さらに複数のモスクの調査を検討している）。モスクがいかに都市景観に溶け込むかという、デザイン性を切り口としているので、外観に注目するのはもちろんだが、モスクを訪問し、イマーム（モスクの導師）をはじめとする運営者の方々に直接お話を伺ってきた。

調査地と聞き取りに応じて下さった方々のお名前を列挙すれば、以下のとおりである。

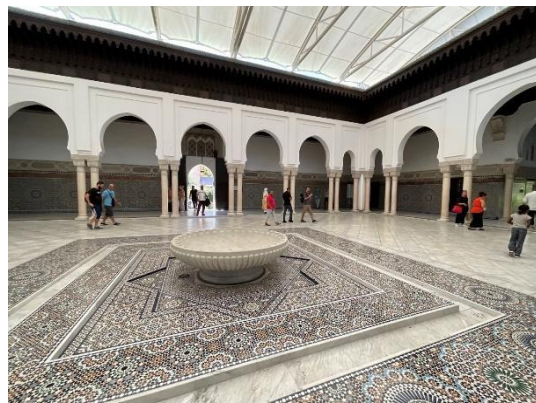
1. 京都中央モスク（京都府京都市左京区元田中）：Ahmad Yaman Kayali 氏（2022 年 8 月 30 日）
2. Japan Da'wah Centre（大阪府大阪市住吉区）；Zulkarnain Hasan Basri 氏（2022 年 9 月 11 日）
3. 大阪イスティクラールモスク（大阪府大阪西成区）：当日併設のハラール・ショップの店番をしていた青年（イマームにインタビューの予約をしていたが、都合で会えなかった）（2022 年 9 月 11 日）
4. 金沢モスク（石川県金沢市若松町）：松井誠志氏、ヒクマ・バルベイド氏（2022 年 11 月 26 日）
5. 富山マスジド（富山県射水市津幡江）：Nadim Khan 氏（2022 年 11 月 26 日）
6. 大阪茨木モスク（大阪府茨木市）：Muhsin Bayyumi 氏（2022 年 12 月 27 日）

本研究では、日本よりも早くからムスリムの住民を受け入れているフランスのモスクについても、2023 年 9 月に臨地調査を行った。その名前を列挙すれば以下のとおりである。

7. Grande Mosquée de Paris（1926 年建造）（2bis Pl. du Puits de l'Ermite, 75005 Paris）（2023 年 9 月 2 日）



【パリ大モスク外観】



【パリ大モスク内陣】

8. Grande Mosquée d'Évry-Courcouronnes（1994 年建造）（20 Rue Georges Brassens, 91080 Évry-Courcouronnes）（2023 年 9 月 3 日）



【エヴリ・モスク外観】



【エヴリ・モスク内陣】

9. Grande Mosquée de Corbeil-Essonnes (2007 年建造) (2 Av. du Général de Gaulle, 91100 Corbeil-Essonnes) (2023 年 9 月 3 日)



【コルバイユ・モスク外観】

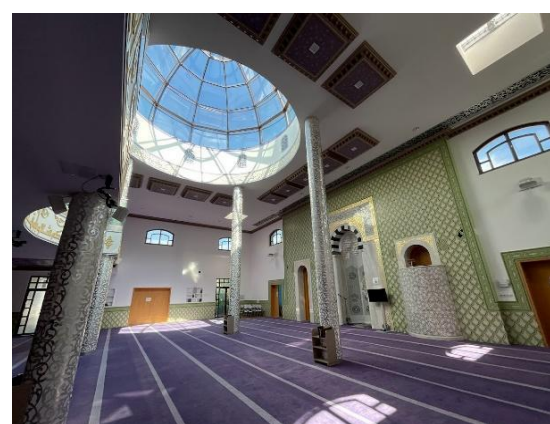


【コルバイユ・モスク内陣】

10. Grande Mosquée de Massy (2019 年建造) (123 Av. de Paris, 91300 Massy) (2023 年 9 月 4 日)



【マシィ・モスク外観】



【マシィ・モスク内陣】

11. Mosquée de Grigny (2018 年建造) (3 Rue Avicenne, 91350 Grigny)

(2023 年 9 月 5 日)



【グリニ・モスク外観】

Anne-Laure Zwilling (2012) は、フランスのモスクを三つの時期（「1900-1930 年代：歴史的モスク」「1980-1990 年代：復興とカテドラルモスク」「2000 年から今日まで：達成の年」）に区分し、各期のモスクは設立経緯やデザイン面で異なる特徴があると指摘している。

本調査は、こうした三つの時期区分をカバーするよう対象を選定した。パリのモスクは第一期、エヴリのモスクは第二期、その他のモスクは第三期に属する。このうち、第二・第三期に属するモスクの調査地選定は、EHESS（フランス社会科学高等研究院）のムハンマド・ベルハジ氏および、モスクの代表者の助言のもと行われた。

ムスリムマイノリティ社会におけるモスクの設立様式には、おおまかに二つのタイプがある。政府等が設立に関与する「上からのモスク設立」、移民が中心となって設立に至る「下からのモスク設立」である（岡井 2007）。今回の調査対象となったモスクのうち、それぞれ第一期と第二期に属する 1 と 2 のモスクは、「上からのモスク設立」の要素が強い。

調査の結果、モスクの設立経緯（「上からのモスク設立」「下からのモスク設立」）によって、デザインの決定経緯が異なることが明らかとなった。フランスにおけるモスクのデザインは、特定のエスニック集団の文化や伝統と密接に関連する傾向が指摘されている（Zwilling 2012）。しかし、今回調査したモスクではこうした傾向と対照的なデザインのコンセプトが認められた。「生まれ育った『フランス風』のエッセンスを備えたデザイン」「コスモポリタンなコミュニティを象徴する」「誰の文化でもないが、誰もが納得できるデザイン」といった、フランスのムスリム移民の移住過程の進行と多様化を背景として醸成された意識がデザインの基盤となっていることが示唆された。

なお、2 年間の助成研究を総括して、2024 年 2 月 11 日に京都大学において一般講演会を催すことを計画している。ムスリムと日本社会の共生について問いかける場になればと願っている。

参考文献

岡井宏文 2007「イスラームネットワークの誕生—モスクの設立とイスラーム活動」『国境を越える—滞日ムスリム移民の社会学』青弓社, 178-209.

Zwilling, Anne-Laure, 2012, “L’architecture des mosquées en France: construire ou édifier?” *Revue des sciences religieuses*, 86(3):343-356.

助成年度	2022～2023 年度
助成種類	一般研究助成
研究課題	イスラームの宗教施設と都市空間との融合：モスクに集うムスリムたちの日本社会との共生